

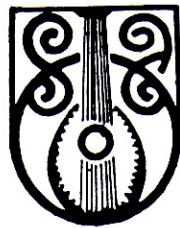
オーケストラ シンフォニカ 東京

第 49 回

定期演奏会

平成 20 年 4 月 13 日（日）午後 2:00 開演

第一生命ホール



プログラム

第一部

指揮： 嶋 直 樹

1. 二つの旋律 E. グリーグ(嶋 直樹 編)
 I 初めての出会い II ノルウェー語
2. ピアノソナタ第14番「月光」第1楽章 L.V. ベートーヴェン
(嶋 直樹 編)
3. 行進曲「威風堂々」第1番 E. エルガー

第二部

指揮： 宮 本 皓 永

1. 晩 春 武 井 守 成
2. 祭礼の街角 武 井 守 成
3. 会津磐梯山と八木節 高 野 吉 司
4. 五木の子守唄を主題とする変奏曲 駒 月 勇 雄

第三部

指揮： 山 本 雅 三

1. 皇 帝 M. マチョッキ
2. 田園のスケッチ C. ヴェルキー
 暗い森の中の踊り 歌と遊戯 収穫のマーチ
3. 幻想曲 モスクワ F. メニケッティ

曲 目 解 説

第一部

二つの旋律

エドヴァルト・グリーグ (嶋 直樹 編)

I 初めての出会い

II ノルウェー語

E.H.グリーグ(1843年～1907年)はノルウェーの作曲家で、ノルウェーの民族音楽の深い影響を受けたその作風により国民楽派の作曲家として知られており、組曲「ペールギュント」やピアノ組曲「ホルベアの時代から」など数多くの名曲を残しています。グリーグが活動した時代は祖国ノルウェーがデンマークから独立し民族意識が高まった時代でした。「ノルウェー語」は、まさしくデンマーク語からの脱却、古くからの独自の言葉を取り戻そうとする民衆の行進曲として書かれています。「初めての出会い」は詩人ビョルンソンの「漁師の娘からの4つの詩」の一つに曲をつけたものです。「初めての出会いの心地よさは、まるで森の歌みたい」とノルウェーの自然を表現した美しい詩に良く合った清々しい佳曲です。本日は都合により曲順を入れ替えて演奏します。

ピアノソナタ第14番 嬰ハ短調「月光」より第1楽章

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (嶋 直樹 編)

L.V.ベートーヴェン(1770年～1827年)の作曲したピアノソナタの中で最もよく知られている曲で、「悲愴」・「熱情」と並んで3大ピアノソナタと呼ばれています。原題としては「幻想曲風ソナタ」とされていたようですが、作曲者の死後に詩人L.レルシュタープがこの第1楽章の美しさを「(スイスの)ルツェルン湖の月光の波間に揺れる小舟」にたとえたため「月光」と呼ばれるようになりました。本日演奏する編曲では原曲ピアノ譜の左手部分をそっくりギターに置き換えたためギターパートの方々に多大なご努力を強いる結果となりましたが、湖の小波をも思わせるギターの絶妙な演奏をお楽しみくださいれば幸いです。

行進曲「威風堂々」第1番

エドワード・エルガー

E.エルガー(1857年～1934年)はイギリスの作曲家の第一人者と呼ばれ「愛の挨拶」など佳曲を数多く作曲していますが、「威風堂々」と呼ばれる行進曲を全部で5曲作曲しており、特にこの第一番が有名です。中間部のメロディーは特に有名で“Land of Hope and Glory”(希望と栄光の国)と呼ばれイギリスの「第2の国歌」と言われるほど愛されています。原題「Pomp and Circumstance」はシェークスピアの戯曲「オセロ」の中のセリフである「栄光ある戦いの壮麗さと威厳」から取られました。「威風堂々」はまさに名訳だと思います。(嶋)

第二部

晩 春

武井守成

本曲は1925(大正14)年4月の作品です。この曲が作られた前の年、大正13年12月にはマンドリン製作の家に生まれ、奏者としてまた作曲家としても有名なラファエレ・カラーチェが来日しております。翌14年の2月10日、宮中での大正天皇の御前演奏があり、その際に使用された楽器リュート・モデルノは天皇に献上され、武井男爵に下賜されました。その楽器は私たちOSTが所有し現在も使用しております。

そういう時代背景を持った曲ですが作者のことばとして「神楽の和琴のリズムを骨子として、暮れ行く春の悲哀を写せんとせるもの」とあります。まさに春の夕景を彷彿させる風情がそこにあります。

武井守成氏(1890年～1949年)は1915(大正4)年に楽団を創設、1923(大正12)年にオーケストラ・シンフォニカ・タケイ(OST)と改称し活動しました。昭和24年に没せられるまで、宮内省式部官という要職のかたわら、作曲や指揮また関連文献の収集や発刊にと斯界の発展に尽力を続けられました。

私たちOSTは現在『オーケストラ・シンフォニカ・東京』としてその流れを受け継いで活動しております。

祭礼の町角

武井守成

「祭り提灯の立ち並んだ町角に置かれた屋台、響く太鼓に笛、封建時代を思わせるむずかしい面を冠って舞う人、見入る群集の顔また顔・・・町神輿が近づいて来た、金色の鳳凰が日に照り映えて揺らぐ」と作者は曲の背景を表しています。

この曲は1941(昭和16)年1月の作品で6月にご自身の指揮により初演されておりますが、前年はまさに日本中が沸いた紀元2600年「金鶏輝く日本の・・・」でした。どこかに華やいだ気分があったのでしょうか？。

そして、この年の12月に日本軍は真珠湾に向かいました。

会津磐梯山と八木節

高野吉司

私たちの前身であるオーケストラ・シンフォニカ・タケイ(OST)は1974(昭和49)年ベルリンで開催されたZupf-Musick祭に参加しました。本曲は当時コンサートマスターであった故高野吉司氏(1914年～2007年)が「なにか和風を感じさせられる曲を現地の人たちに紹介したい」として日本民謡をもとに作りあげた作品で、当地で演奏され非常に好評を博しました。

故高野氏は1959(昭和34)年、故杉田村雄氏が新組織として再興したOSTに入会、コンサートマスターを長く務め、後に常任指揮者として私たちを指導していただきましたが惜しくも昨年3月25日93歳で逝去されました。生前のご指導に感謝し追悼の演奏といたします。

五木の子守唄を主題とする変奏曲

駒月勇雄

この曲は慶応マンドリンクラブOBの駒月勇雄氏(1945年～)が学生時代に作曲したものです。1966(昭和41)年、当時全盛であった全日本学生マンドリン連盟主催の各演奏会「三大学(早慶明)マンドリンコンサート」(5/14神田・共立講堂)、大阪・毎日ホールで開催された「関東選抜チーム演奏会」(12/4)、また14大学が参加して開かれた「第三回全日本学生マンドリン連盟演奏会」(12/18神田・共立講堂)などで演奏されました。その後はほとんど演奏されていなかった40年前の作品の記憶を頼りに探し出し今回、取り上げてみました。なおOSTの演奏にあたり若干補筆をしてあります。(宮本)

第三部

マンドリン音楽で人気の高い作曲家の作品の中でも、今回はあえて比較的演奏機会の少ない作品を取り上げ、その魅力を探りました。

皇 帝

マリオ・マチョッキ

マチョッキは20世紀前半に約800曲にのぼるマンドリン音楽の作品を作曲、編曲した多作な作曲家で、「麦祭り(合唱付)」「水車小屋の乙女」「ミルトリア」など現在でも盛んに演奏されています。1874年ローマに生まれ、熱心な音楽愛好家の父よりセロの手ほどきを受け、その後マンドリン、ギターその他ピアノ、ヴァイオリン、指揮法を学びました。万博の1900年にパリに行き、その頃興隆を見せはじめていたマンドリン音楽に傾倒してパリにおいて作曲および音楽雑誌エストゥディアンティナ誌(1906年～1936年)を出版することによってマンドリン音楽に多大な貢献をしました。マンドリンが多方面に広く浸透しているように思われるためにオルガ伯爵夫人、またはマリオ・デ・ローマのペンネームも使用しました。パリマンドリンオーケストラにて自作品を指揮し、サン・サーンズ、マスネーといった著名な音楽家にも認められ、特にマスネーはそのオーケストラの会長に選ばれています。1955年に81歳で没しました。本曲はその名のとおり堂々としたテーマに始まります。運命を予感させるような美しくもやや陰鬱な旋律がつづき、様々な場面が波乱万丈に劇的に展開していきます。

田園のスケッチ

コンラート・ヴェルキ

ドイツの代表的な作曲家ヴェルキ(1904年～1983年)は6つの「序曲」「大いなる時」「単楽章のシンフォニー」など管楽器、打楽器を加えた大編成のマンドリンオーケストラ作品の大いなる可能性を追求し、多大なる成果をあげました。他方でマンドリン音楽の研究、青少年への教育にもとても熱心でした。この「田園のスケッチ」には「初めてのマンドリン合奏の為の6つのやさしい作品」との副題がつけられています。「1.小さな発見 2.暑い夏の日 3.馬車に乗って 4.暗い森の中の踊り 5.歌と遊戯 6.収穫のマーチ」の6つの小曲からなっていますが、今回は後半の3曲を演奏します。技術の取得および音楽の学習を考慮して、基礎練習レベルから徐々に演奏難易度を増す構成になっています。平易な内容の中にもヴェルキの豊かな音楽性、マンドリン音楽に対する愛情が満ちています。

幻 想 曲 モスクワ

フランワ・メニケッティ

「最後のステージ(宿营地)」「魔女の谷」で有名なメニケッティ(1892年～1969年)はフランスのコルシカ島に生まれ、初めての音楽教育はアコーディオン製造業の父からでした。軍楽隊の演奏に憧れましたが、本土に渡る状況になく地元での独学での音楽の勉強を続ける中で、マンドリン・ギターも習得しました。やがてトゥロンの音楽院で本格的な指導を受け、海軍軍楽隊に入隊しました。彼の作った多くの歌が水夫達に愛唱されたそうです。アフリカ、トルコなど転任し、軍楽隊長まで務めています。2つの大戦を経て、戦後はマルセイユに在住し、興味を持っていたマンドリンオーケストラの為の専門誌「メディアートル」を出版し、多くの曲を世に送り出しました。パリの幾つかのマンドリンオーケストラの技術顧問を務め、またフランス以外にもオランダ、ドイツ、イギリス等のコンクールで審査員をするなど活躍し、音楽界への貢献により18個の各種の勲章を受章しています。1955年出版の本曲はモスクワの印象が連続して演奏される次の6つの小楽章で表現されています。1.起床ラップ 2.古い塔の鐘 3.聖歌隊 4.ダンス 5.牧歌 6.ロンド(信号)。ロシアの風景や雰囲気が鮮やかに表現されています。

(山本)

指揮者：○山本雅三 ○宮本皓永 ○嶋直樹

コンサートマスター：○本間輝樹

第一マンドリン：○本間輝樹 田島明子 城戸かほる 前田啓子
○嶋直樹 新谷文子 新居裕久 富田容子

第二マンドリン：○諸井美津江 平賀理恵子 金勝溪子 大口千秋
後藤俊明 中村順子 木村栄子 ○藤田正美

マンドラテノール：滝田ふさ子 深野靖夫 田中倭文子 石井啓之
渡辺清 佐々木興治 川村安子 高嶋典子

ギター：宮本紀子 門田雄二 黒崎恵美子 船崎薫
平田陽一 坂本富三郎 佐竹真弓 澤田行雄

リユートモデルノ：戸次脩

マンドチェロ：宮崎泰行 田村美恵子 吉尾浩

マンドローネ：○家城孝治 ○宮本皓永 ○山本雅三

コントラバス：佐藤正 ○石黒不二夫

フルート：・西村いづみ

クラリネット：・福嶋美香

ピアノ：・浦嶋晶子

打楽器：・内田眞裕子 ・斉藤祥子

〔○———幹事〕
〔●———賛助出演〕

当OSTの顧問でありました高野吉司先生が昨年3月25日にご逝去されました。OSTで長年ご活躍され、コンサートマスター、指揮者として私たちをご指導下さいました。ここに会員一同、生前のご指導に感謝申し上げるとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

オーケストラ シンフォニカ 東京 (OST)

連絡先：〒236-0057 横浜市金沢区能見台3-28-6 石黒 不二夫

TEL&FAX 045-770-4806

ホームページ：<http://ishii164.net/~ost/>